

3月10日は「農山漁村女性の日」

地元食材をもっと生かしたい

最近注目を集めているのが、農村女性たちによる起業活動です。例えば、地域農産物を活用した特産加工品づくりや朝市での販売、農家レストランの経営などがあります。農林水産省の調査によると、平成24年度の全国の女性起業数は9,719件、香川県では110件でした。

飯山町を活動拠点とするグループ「もも里」も起業グループの一つです。今回は、「もも里」の代表を務める三原繁子さんの活動をご紹介します。

桃の形の押し寿司作り

三原さんは、平成10年8月に自宅の納屋を加工所として改築し、そこを中心に加工品づくりを行っています。現在は、丸亀市の特産である桃を使ったジャム、焼き肉のたれ、桃の形をした押し寿司などを作って販売しています。

1月24日に押し寿司作りを取材させていただきました。この日使ったお米、レンコン、油あげ、卵は県内産のものです。

三原さんに加工品づくりを始めたきっかけなどをたずねてみました。

「地元の食材を使った加工品づくりがずっとしたかったんです。桃の形の押し寿司など、自分のアイデアを商品にできるところが面白いですね。そのうえ、買ってくれた人が『おいしい』と言って

くれたら、これほどうれしいことはありません。

しかし、日によっては売れ残ることもあるのでは？

「一日に15個ほど押し寿司を作って販売していますが、売れ残ることもあります。おいしさはもちろん、まずは商品を手に取ってもらえるよう工夫しなければいけませんね。」



桃の形に押し抜いてトッピング

地産地消の“先生”も

三原さんは、野菜の生産者の一人として、小学校での地産地消の授業に協力することもあります。1月28日には飯山北小学校5年生を対象とした授業が行われました。

当日は三原さんも含めた地元の生産者9人が



子どもたちを前に丁寧に説明する三原さん(右端)

自分で育てた野菜を持参し、「これらの野菜を使ってみなさんの給食が作られています」と紹介しました。

授業の後半では9つの班に分かれ、生産者のみなさんが各班の“先生”になります。子どもたちは先生を取り囲んで、野菜について熱心に質問していました。

三原さんは、このような地産地消の取り組みも大切にしたいと思っているそうです。「わたしたちが育てる野菜を給食として食べてもらえるのはうれしいですね。育てる張り合いにもなります。今日のような授業を行うと、子どもたちは野菜の本来の形や大きさに驚き、目を輝かせながら野菜に触ったりにおいをかいたりしてくれます」。

女性起業グループの一員として、生産者の一人として生き生きと活動している三原さん。三原さんのアイデアと行動力、ネットワークが地域の活力につながっています。

農山漁村女性の日とは

「農山漁村女性の日」は、昭和63年に農林水産省により定められました。その目的は、農林水産業や農山漁村の発展に向け、農村女性の役割を正しく認識・評価し、女性の能力が一層生かされることです。3月10日に決められたのは、農山漁村女性の知恵・技・経験の3つの能力をトータル(10)に発揮してほしいという願いが込められています。

女性起業の要件

以下の3つの要件を満たすもの。(出典：農村女性による起業活動実態調査)

- ①女性の収入につながる経済活動(無償ボランティアを除く)
- ②農村在住の女性が主となって行う、地域特産物を利用した農林漁業関連の経済活動
- ③女性が主たる経営を担っているものであること

男女共同参画講演会



1月23日、講師に株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表の佐々木常夫さんをお迎えし、「あなたの働き方を変えてみませんか～個人も組織も成長するワーク・ライフ・バランス～」と題して男女共同参画講演会を開催しました。会場のひまわりセンターには事業所の方も含め177人が集まりました。

佐々木さんは秋田市のご出身。東レ株式会社に入社、平成13年に取締役役に就任、平成15年に株式会社東レ経営研究所社長に就任しました。自閉症の長男とうつ病の妻がいて、肝臓病をも患う妻は20年間の間に43回も入院、3回の自殺未遂を起こしました。家事、育児、介護に追いつけられない状況の中で、佐々木さんは会社の仕事にも全力で取り組んできました。

ワーク・ライフ・バランスは「仕事と生活の調和」と和訳されていますが、自分の仕事を定時に終えて、自分の生活を充実させよう、ということではなく、個人も会社も、ともに成長する経営戦略です。ワーク・ライフ・バランスを実現するために、佐々木さんは「仕事の進め方の基本10か条」という習慣と「タイムマネジメント」という基本戦略を実行してきました。

仕事の進め方の基本10か条

1. 計画主義と重点主義
2. 効率主義
3. フォローアップの徹底
4. 結果主義
5. シンプル主義
6. 整理整頓主義
7. 常に上位者の視点を持つこと
8. 自己主張の明確化
9. 自己研鑽
10. 自己中心主義

タイムマネジメント

タイムマネジメントは時間の管理ではなく仕事の管理です。

1. 「戦略的計画立案は仕事を半減させる」

仕事の遅速は能力の差ではなく、その仕事に対する価値観の差(その仕事をどう考えているか)、段取りの差です。

2. 「ブアなイノベーションより優れたイミテーション」

先人の優れた成果を模倣(利用)します。「優れたイミテーション」を繰り返すことにより、「優れたイノベーション」が生まれます。

3. 「仕事は発生したその場で片付ける」

例えば、会議の議事録(報告)を会議が終わってから作成するのではなく、会議中の空き時間に作成します。

4. 「仕事を捨てる」

捨てる仕事を決めます。いちばんいいのは、その仕事を

やらないことです。しかし、やらなければいけない仕事なら、その仕事に詳しい人を探して、その人に聞きます。

5. 「会議は最小限に ミーティングは頻繁に」

会議は少なく、短く、少人数ですることが重要です。ただし、テーマに関係する人が集まるミーティングはすぐに開きます。

参加者のアンケートより

- 自分を愛することを大事にしないといけないと感じた。子どもたちの自己愛がいま低いので、手立てを考えていきたい。
- 節目ごとのタイムマネジメントの大切さがわかった。経験を交えながらの講演なので分かりやすく、あっという間に終わった。

日本女性会議2014札幌

丸亀市男女共同参画審議会委員 近石美智子

昨年10月17日～19日、遠く北海道の地で開かれた「日本女性会議2014札幌」に、丸亀市男女共同参画審議会を代表して参加してきました。



アイヌ伝統舞踊で歓迎(開会式)

今年の大会テーマは『未来の景色は、わたしたちが変える』。たくさんの学びがありましたが、今回は基調報告について感想を報告します。

基調報告のテーマは“日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について”。

政府曰く、「女性の就業率が高いほど子どもの出生率も高い」と。そのとおり、だと思います。しかし、「保育所を作ってください」と、街頭で涙ながらに訴える、赤ちゃんを抱っこした何人もの若いお母さんが報道されていたように、保育所不足はますます深刻です。これでは、働く女性が安心して子育てできません。

「女性の活躍促進」と政府は言います。そのとおり、だと思います。現在日本はあらゆる意思決定の場で指導的地位につく女性の割合が低く、国連からも改善を指摘されています。(ちなみに2014年男女格差指数で、日本は142か国中104位)

先日丸亀市議会を傍聴しました。教育長、健康福祉部長、こども未来部長と3人の女性が理事者側に座っていました。数年前までは一人も女性がいなかったことを思うと、感無量です。(それでも丸亀市は64人の部課長の内、女性はわずか4人だそうです)

毎年職員が日本女性会議に参加している男女共同参画室とも力を合わせ、『丸亀の未来の景色はわたしたちで変えましょう』と、周りに呼びかけていきたいと思っています。